はじめに

尾道市立大学が開学して13年が過ぎようとしている。この本が出版されるのが2014年なのでそんな計算になる。こう書いてしまうと、四年制になってからの期間が長いのか短いのかよくわからないが、2001年から2013年に入学した13期生までと考えると沢山の個性と出会ったのを思い出す。ほとんどの学生の個性や感性はまったく異なるので、膨大な数の学生の特徴や制作した作品、また論文などがそれぞれの先生に残っているはずだ。そう思うと結構長くも感じる。一学年の入学定員が約300名なので単純計算すると約3900名（実数はもう少し多い）の学生が四年制大学になってからの学生総数である、そう思うともうそんなになるのだ、案外早いじゃないか、となる。

日本の中でも小さな大学である尾道市立大学だが、若者約3900名という数字は尾道では小さくない。その数だけここで大学生として何度も誕生日をむかえ、またこの尾道という町に数々の思い出を残しているはずである。

大学の授業に「尾道学入門」という教養教育科目がある、大学の授業計画（シラバス）の一番始めに出てくる前期15回で15名の先生によるオムニバス授業である。年度はじめ第一回目の授業でハプニングは起きた。第一回目はどんな授業かと見学の学生もいたはずであるが学生が椅子の数より100名近く多い約420名の学生が押し寄せて来た。今現在ある教室の中で一番大きい教室がC４教室でC棟の３階にある階段教室だ。席数は336席で約84名近く定員をオーバーしていたのだ。今までこんなことはなかった、原因は分からないが授業としては人気があるということだろうか。特に新入生は尾道のことを知っておくといいことは何となく分かる、そこにたまたま上級生が重なってしまったのだ。新入生は約300名である、普通全員は取らない。偶然とはいえ、この受講しようとしていた人数から抽選で約84の学生が泣く泣く削られてしまったのだ。

この授業は地域総合センター長の管轄授業なので、一回目の授業に出てレポートを出したが抽選で来年と言われた学生には一回目の授業だけは免除することを考えている。尾道のことを無性に知りたいと思う学生達に違いないからだ。

来年オープン予定の新校舎E棟には410名を収容できる教室が用意されている、新入生300名のほとんどがこの授業を受けて、本年度の受講できなかった約84名が受講したとしても来年は大丈夫そうだ。その人気がある講座は今まで市民の皆様が聴講してきた「尾道学講座」が中心となって構成されているのを付け加えておこう。

尾道大学地域総合センター長
稲田　全示

目　次

はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・稲田　全示　1

尾道の風景が奏でるメロディー　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・川勝　英史　3

「かみのらぼ」について・・・・・・・・・・・・・・・・・高岡　陽・小畑　拓也　15

なぜ住友銀行は尾道で産声を上げたのか？・・・・・・・・・・・・・・小谷　範人　19

尾道の麺文化　－うどん・そばの食文化　・・・・・・・・・・・・・・・・・藤沢　毅　68

平成23年度～24年度　久山田調査研究報告・・・・・・・・・・・・・・藤井　佐美　112

付・2012年度尾道学講座紹介　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・113

執筆者紹介　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・115